

道の駅ネットワーク(連携)に関する先行事例の紹介

概要

○道の駅の連携事例の概要・効果等を以下に整理した。このうち「10.静岡県伊豆地域」、「12.秋田県環鳥海地域」、「17.北海道南北海道地域」の事例を紹介する。

No.	地域	主体・連携機関	概要	連携による効果・メリット
1	山形 西村山地域	「山形どまんなか道の駅連絡会」 ・道の駅：5駅	・集客力の大きい「やまがた雪フェスティバル」と連携して期間中に「山形どまんなか道の駅フェス」を開催し、道の駅記念切符の発行や各道の駅の魅力を生かした「丼バトル」「麺バトル」を開催	集客力の大きい「やまがた雪フェスティバル」と連携して取り組むことができ、 西村山地域の認知度が高まり、相互連携による道の駅の周遊観光の促進にも繋がっている。
2	福島県 会津	「会津道の駅交流会」 ・道の駅：15駅	・運営母体が自治体、第三セクター、民間企業と様々で、規模もバラバラ。交通の要所に位置する道の駅は十分な利用者数が見込めるものの、他の道の駅では利用者数の減少に悩んでいた。 ・スタンプラリーやフォトコンテストの実施	サービスの質の差や温度差を改善し、利用者数の減少している道の駅の集客力を上げる。 かつては郡山から会津への通過点だったが、 道の駅で足を止めてもらえるようになった。
3	北海道 空知地域	「中そらち道の駅ネットワーク会議」 ・道の駅：6駅 ・設置者である各自治体及び管理請負者 ・協賛団体として地域の団体法人及び民間会社	・道の駅間を周遊するスタンプラリーの実施 6駅全てを押印し、応募すると抽選で景品が当たる（地元のホテル宿泊券、地域ブランドワインなど）	・道内各地・道外という幅広い地域からの応募があった。 ・アンケート調査から「 スタンプラリーが無ければ、6駅全てでは回らなかった 」と回答した人が 54% いたことから効果があったと感じられる。 ・それぞれの道の駅は高速道路から30km以内の範囲に設置されており、 参加者の過半数の方がスタンプラリーを1日で6駅回っていた
4	北海道 石狩管内	・道の駅：5駅	・5駅連携のグルメラリー	・合同イベント開催による道の駅周遊の促進
5	兵庫	・道の駅（うずしお） ・淡路島観光協会	・サイクルステーション、大鳴門橋自転車道との一体整備整備より、四国サイクリングルートとの広域連携を図りサイクルツーリズムを推進 ・道の駅は自転車ラックを完備	・鳴門海峡を跨ぐ交流を促進し、四国のサイクリングルートとの広域連携を図る ・観光情報を一体的に発信することにより、周遊・滞在型観光を推進 ・インバウンド受入体制・情報発信の強化
6	宮城県 登米市、石巻市 本吉町	「宮城県道の駅北東エリア6駅連絡協議会」 ・道の駅：6駅	・商品交流、イベント、合同マップ、統一のぼりによるPR、相互研修。	・相互研修によるサービスレベルの統一 ・商品交流、イベント、合同マップによる周遊促進
7	九州	「九州沖縄道の駅ネットワーク」	・共同で商品開発・販売。第一弾として、九州名産の茶葉をブレンドしたペットボトル茶「茶の道の駅」、第二弾として「茶の道の駅ばん」。	・道の駅の知名度向上 ・地域振興（九州のお茶のアピール）
8	津軽半島	「津軽半島「道の駅」の会」 ・道の駅：9駅	・それぞれの駅長の調査した各スポットの地域資源を結びつけ、津軽の食を堪能しながら道の駅めぐりをする、「津軽半島スローフードドライブツアー」という企画を実施。	・道の駅および周辺地域の周遊促進
10	静岡県 伊豆地域	「伊豆道の駅ネットワーク協議会」 ・道の駅：8駅 ・7市6町の行政 ・観光協会 ・静岡県 ・国土交通省 など	・各駅の観光総合窓口等による統一の情報PR ・既存駅とのノウハウ共有するなどの外国人対応における各駅の連携 ・景品を伊豆地域のホテル宿泊券や特産品にした「伊豆の道の駅スタンプラリー」を実施 ・道の駅函南では、観光案内所を設置し、観光コンシェルジュを配置 ・修理工具・空気入れの貸出、休憩場所の提供、ドリンクボトルチャージなどのサービス実施 ・レンタサイクルスポットの設置	ネットワーク化による「相乗効果」を発揮 ・市町ごとにバラバラの観光情報を一体的に情報発信により、 伊豆の魅力向上、周遊観光の推進による圏域の競争力を強化 ・既存・新設のビジット・ジャパン案内所との連携による機能補完や、既存駅とのノウハウ共有により、 外国人対応力強化
11	愛媛県 今治市	・道の駅：5駅 ・5つの道の駅と行政、地元大学等の産官学の関係者による意見交換会	・サイクリングロードとしてのしまなみ海道の認知度の上昇にあわせて、「瀬戸内しまなみ海道」の独自の観光資源の魅力を一体的に情報発信することで、国内外の観光客を地域の周遊観光へと呼び込む環境を構築。 ・産官学の関係者により意見交換会を実施し、周遊型イベントの企画・開催、観光マップを作成。	・「道の駅」の連携イベントにより周遊観光を促進 ・「瀬戸内しまなみ海道」のサイクリングコースや急流観潮船、海鮮バーベキューなど独自の観光資源の魅力を一体的に情報発信し、 サイクリストをはじめとした国内外の観光客を地域の周遊観光へと呼び込む環境を構築
12	秋田県 環鳥海地域 (由利地域)	「由利地域 重点「道の駅」推進協議会」 ・道の駅：6駅 ・2市の行政 ・秋田県 ・国土交通省 など	・周遊バスを用いて周遊交通を確保した上で鳥海山・特産品を活かした広域周遊観光圏を形成。環鳥海地域の観光情報ワンストップサービスと各駅の個性（独自商品）を活かした周遊観光の活性化を推進。 ・6駅連携による道の駅バトル ・観光拠点センターの整備 ・日治道供用に合わせたタイアップ企画を検討し、6駅連携イベントを開催。	・周遊観光の促進 連携イベント（メニュー対決）実施の結果、6駅間での 入込客数の差が9倍だったのが4倍に縮小
13	鳥取	・道の駅：2駅	・神話「因幡の白うさぎ」を観光の中心として情報発信することで、周辺観光施設との連携拠点となる ・神話に関連したマスコットの販売や、新商品の開発 ・体験・周遊観光のためコミュニティバス運行、公共交通の乗り継ぎ拠点化	・周遊観光の促進による産業振興、交流促進
14	広島県 三次市・島根県 雲南市 飯南町	・道の駅：4駅	・公共的サービスを協働実施、道路・防災・観光・定住などの情報発信 ・体験型観光イベントなどを実施し、地域内外住民との対流拠点として機能	・公共的サービスの充実による地域の暮らしの維持 ・イベント交流＋定住情報の発信により、人口減少に歯止めをかけ、沿線地域の生活基盤を持続的に維持・活性化
15	千葉県 南房総市	・道の駅：8駅	・道の駅を拠点として訪日外国人旅行者に対する地域観光施設の案内所を設置、ツアーの受入窓口を整備 ・サイクル・バイクツーリズムの回遊ルートを確立	・JNTO案内所の設置や着地型ツアーの外国人観光客の受入窓口を整備することで、インバウンド観光を促進 ・風景街道との連携により 市内の回遊性と地域消費を向上
16	愛知県 田原市	・道の駅：3駅	・道の駅及び体験型観光の情報発信（体験受付窓口設置、SNS、インバウンド対応等）拠点としての整備 ・ナショナルサイクリングルートの指定に向けた太平洋岸自転車道サイクリストの受入れ、インバウンド観光促進 ・ナショナルサイクリスト受入：サイクルラック、多言語ルートマップ、レンタサイクル、荷物ロッカー・着替えルーム、サイクルステーション、Wifiの整備	・次世代観光となる体験型観光を道の駅で情報発信することで、周遊観光を促進 ・情報通信機器を活用し3駅が連携した外国人案内対応を実施することで、インバウンド観光を促進
17	北海道 南北海道地域	「歴史・文化を活かした南北海道サイクルツーリズム推進協議会」 ・道の駅（7駅） ・自治体 ・国土交通省 ・関連団体 合計36団体	・道の駅、行政、関係機関、民間を巻き込み、一泊で地域を周遊するサイクリングイベントを実施。サイクリングツアーでは、道の駅への立ち寄りの他、地元住民と連携した歴史ガイド等の体験型メニューを用意。 ・協議会が運営するHPにおいて、地域のサイクリングルートを紹介。 ・休憩所として利用する道の駅などの施設にはラック、空気入れ、工具、チューブの販売などを整備	・道の駅以外にも、地元観光地等に立ち寄るルートを用意し、道の駅だけではなく地域全体の周遊を促進。

道の駅連携の事例① 一体的な情報発信やイベント開催【静岡県伊豆地域】

1. 背景・概要

- 伊豆地域には、豊かな自然による風光明媚な景観と、文学や歴史、グルメや富士山を望めるロケーションなど多様な観光資源が豊富に点在。
- 伊豆半島の玄関口にあたる道の駅函南に、**情報発信拠点**を整備。
- 伊豆半島内にある8箇所の道の駅をネットワーク化し、地域の多様な観光情報を道の駅を基点に**一体的に発信**するとともに、**外国人対応等を各駅が連携（機能補完）**して行うことにより、**伊豆半島圏域の周遊観光を促進し観光競争力を強化**。

2. 実施内容

● 一体的な情報PR

- ・道の駅函南に観光案内所を設置し、リアルタイムで集まった情報を来場者のキャラクターや要望に合わせて伊豆の「今」を提供する、**観光コンシェルジュ**を配置
- ・**Webアプリ**を用い、伊豆が**一体となった観光情報の発信**。また、アプリで得たデータをもとに**観光客の行動分析を実施**。



【伊豆じゅう感動ナビ】



【道の駅函南ホームページより】

● 連携による外国人対応

- ・既存・新設のビジット・ジャパン案内所との**連携による機能補完**や、既存駅との**ノウハウ共有**

● 合同イベントの開催

- ・景品を伊豆地域のホテル宿泊券や特産品にした**「伊豆の道の駅スタンプラリー」**を実施



● 自転車による周遊促進（道の駅函南）

- ・道の駅内に「サイクリストたちの休息と交流」をテーマとした「Spoke Café」を開設し、自転車利用者には**修理工具・空気入れの貸出、休憩場所の提供、ドリンクボトルチャージ**などのサービスあり。
- ・**レンタサイクルスポット**を設置し、MERIDAブランドの中でも、普段乗ることのできないハイエンドバイクなどを体験可能。



【道の駅函南ホームページより】

● 連携機関

・伊豆道の駅ネットワーク協議会

-伊豆地域の道の駅

伊東マリンタウン（伊東市）	開国下田みなと（下田市）	天城越え（伊豆市）
伊豆のへそ（伊豆の国市）	下賀茂温泉湯の花（南伊豆町）	花の里三聖苑伊豆松崎（松崎町）
くるら戸田（沼津市）	伊豆ゲートウェイ函南（函南町）	

-7市6町の行政・観光協会

★…道の駅を有する自治体

沼津市★	熱海市	三島市	伊東市★	下田市★
伊豆市★	伊豆の国市★	東伊豆町	河津町	南伊豆町★
松崎町★	西伊豆町	函南町★		

-静岡県

-国土交通省

3. 期待される効果 等

● ネットワーク化による「相乗効果」を發揮

- ・市町ごとにバラバラの観光情報を一体的に情報発信

⇒**伊豆の魅力向上、周遊観光の推進による圏域の競争力を強化**

● 既存・新設のビジット・ジャパン案内所との連携による機能補完や、既存駅とのノウハウ共有

⇒**外国人対応力強化**



道の駅連携の事例② 複数機関連携による広域周遊観光圏の形成【秋田県環鳥海地域】

1. 背景・概要

- 「鳥海山」・名勝「九十九島」・「岩がき」等の資源を有する道の駅象潟に、**情報発信拠点・交通結節点**を整備し、ゲートウェイ化。
- 環鳥海の6駅が連携し、周遊交通を確保した上で鳥海山や特産品を生かした**広域周遊観光圏**を形成。
- 環鳥海地域の**観光情報ワンストップサービス**と、**各駅の個性（独自商品）**を活かした、周遊観光の活性化を促進。

2. 実施内容

- 観光拠点センターを整備し広域観光情報発信
- 道の駅象潟に隣接する観光拠点センター「にかほっと」を開設。市の観光情報だけでなく、**由利地域を中心とした秋田県全体の観光資源を紹介**



【にかほっと（道の駅象潟隣接の観光拠点センター）ホームページより】

- 周遊交通の確保
- 空港・新幹線駅から「道の駅」への**高速バスやレンタカーなどの交通手段を提供**。パーク&ライドを導入し、地域内のコミュニティ交通に乗り換え「道の駅」や「地域内観光名所」を周遊できる**ミニ周遊観光を提供**。

- 合同イベントの開催
- 道の駅6駅による「道の駅バトル」を開催し、**複数の道の駅への周遊を促進**。
- 近年は、道の駅に加えて**地元の店舗もイベントに参加**



【道の駅バトル2018（環鳥海地域連携事業実行委員会）ホームページより】

- 6駅連携による商品開発
- 複数事業者により「由利地域食農観推進グループ」を立ち上げ、**ご当地メニュー開発・特産品のブランド開発**をスタート。
- ご当地の山の幸・海の幸を盛り込んだ「鳥海選びどん」を商品化し、道の駅などで販売。

●連携機関

・由利地域 重点「道の駅」推進協議会

-由利地域の道の駅駅長

象潟（にかほ市）	にしめ（由利本荘市）	岩城（由利本荘市）
おおうち（由利本荘市）	東由利（由利本荘市）	鳥海郷（由利本荘市）

-2市の行政・観光協会

★…道の駅を有する自治体

由利本荘市★	にかほ市★
--------	-------

-東北道の駅連絡会

-秋田県（建設部道路課、由利地域振興局総務企画部・建設部）

-国土交通省

※当初の協議会には入っていないが、最近のイベントには山形県酒田市・遊佐町の店舗も参加

3. 期待される効果 等

- 道の駅連携イベントの開催

⇒**集客力の底上げ**

⇒**さらに地元店舗を巻き込んだイベントにより、地域への周遊促進**

（現在は、道の駅を有する2市のほか、隣接する山形県酒田市・遊佐町の店舗も参加）

- ゲートウェイ型の道の駅整備

⇒**ワンストップで広域観光情報の発信、広域周遊観光の促進**



○由利地域6期の入込客数



○由利地域6期のイベント時の入込客数（イベント9回の平均）



道の駅連携の事例③ 36団体が連携したサイクリング環境の構築【北海道 南北海道地域】

1. 背景・概要

- 道の駅、行政・関係機関、民間を巻き込み、体験型メニューを取り入れたサイクリングツアーを実施。
- サイクリングイベントの際の立ち寄り先は、道の駅の他、地元住民と連携した歴史ガイド等の様々な体験を取り入れ、道の駅だけでなく地域への立ち寄りを促進。

2. 実施内容

- 複数自治体にまたがるモデルサイクリングコースを紹介
- 協議会が運営するWebサイト「チャリ旅みなみ北海道」にて、1～2日で巡るサイクルコースを紹介。途中で立ち寄りできる観光スポットなどを合わせて紹介することで、地域の周遊を促進。

【チャリ旅みなみ北海道ホームページ（当協議会運営）より】

- 道の駅や地域の観光スポットを巡るイベント開催
- 道の駅や周辺観光地を巡るサイクルツアーを開催。
- 2018年にモニターツアー実施後、2020年は本格実施予定。

【シーニックバイウェイ北海道ホームページより】

- サイクリスト向けの機能を備えた施設の整備
- 道の駅など、ルート沿いの各スポットにはサイクリストのためのサインボードやバイクラック、空気入れなど安全のための設備を用意。

【チャリ旅みなみ北海道ホームページ（当協議会運営）より】

●連携機関

●歴史・文化を活かした南北海道サイクルツーリズム推進協議会

-道の駅

みそぎの郷きこない（木古内町）	北前船松前（松前町）	横綱の里ふくしま（福島町）
しりうち（知内町）	江差（江差町）	上ノ国もんじゅ（上ノ国町）
あさぶ（厚沢部町）		

-10市町の行政 ※オブザーバー

★…道の駅を有する自治体

函館市	北斗市	松前町★	福島町★	知内町★
木古内町★	江差町★	上ノ国町★	厚沢部町★	奥尻町

-地域の観光協会や商店街協同組合

-自転車関連の団体

（どうなん追分シーニックバイウェイルート、函館サイクリング協会、どうなんチャリンコ倶楽部 等）

-北海道 ※オブザーバー

など、計36団体

3. 期待される効果 等

- 道の駅と地域・民間が連携したサイクリング環境の整備、イベントの開催
- ⇒道の駅や周辺観光スポットへの立ち寄り促進
- ⇒地元住民との交流促進

2018年のイベント時

- 地元の歴史ガイドと一緒に街歩き



- 地元の旅館へ宿泊



- 2018年のモニターツアーでの意見も踏まえ、2020年も継続実施

道南の歴史や文化を体験しつつ走る、サイクルツアー2020年も10月開催予定

木古内→松前→江差→木古内という約180km(寄り道あり)のコースを、各地の歴史や文化を体験しつつ、3日間かけてのんびり走るツアーです。

開催
2020/10/02(金)～10/04(日)
応募締め切り 2020/09/21



【チャリ旅みなみ北海道ホームページ（当協議会運営）より】

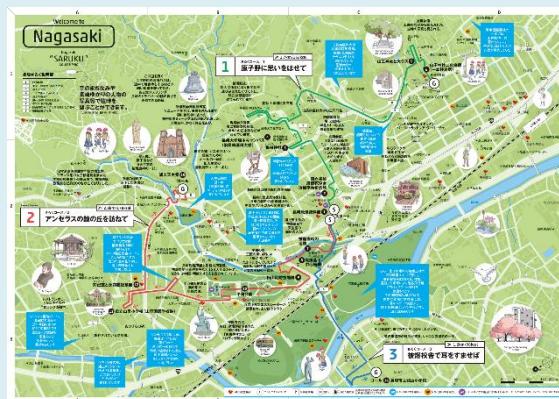
【参考】地域連携のまちあるきによる観光振興(長崎さるく)【長崎市】

1. 背景・概要

- 「さるく」とは、まちをぶらぶら歩くという意味の長崎弁。
- 長崎名物・ガイド付きまち歩きツアー「通さるく」、専門家による講座や体験を組み合わせた「学さるく」などを用意。
- 長崎ならではの歴史や文化、歳時記を味わえる「まち体験」こそが「長崎さるく」の醍醐味。
- 企画から実施まで市民が参加。地元住民だからこそ知る地域資源を掘り起こし。

2. 実施内容

- 遊さるく：自由気ままに長崎散策52コース
- さるくコースマップの配布（無料）
- 説明板の設置（約170基）



- 通さるく：長崎名物・ガイドツアー36コース
- 参加費500円（中学生以上）
- 定員15名/定時出発型（予約制）
- オーダー（自由設計）可

申込方法 全コース完全予約制です。ホームページまたは電話で予約できます!!

- ① ホームページ予約 さるく
- ② 電話予約 ☎095-811-0369 受付時間9:00～17:30(12/29～1/3を除く)

集合場所

- 長崎歴史文化博物館
- 長崎市市民会館
- 長崎海軍資料館
- JR長崎駅
- 駅前(出島)
- 旧香港上海銀行長崎支店記念館

人気コース

- 1 黒崎居館地プレミアムさるく
- 2 龍馬が見上げた長崎の空
- 3 アンセルサスの鐘の音を聴いて
- 4 眼鏡橋から中道DHA

- 学さるく：長崎ならではの体験127テーマ
- 参加費500円~/予約制
- 専門家の講座+まち歩き
- テーマは歴史・自然・食などバラエティー豊か

「長崎ならではの」講座や体験が盛りだくさん!
開催日時を確認して申し込もう!

1 「長崎開港450年 世界遺産のまちさるく」～長崎県庁から長崎県美術館へ～

2 「長崎開港450年 世界遺産のまちさるく」～大野教会堂から出津教会堂へ～

3 「2025年一歩の長崎400年に向けて」長崎の花道 第1回「まちあるき」

4 アニメ「あつち世界の明日から」舞台探訪さるく～春編～

1 「長崎開港450年 世界遺産のまちを歩く」～長崎県庁から長崎県美術館へ～

初登場

長崎の歴史は港から始まった! 「港あり 異国の船をここに招きて 自由なる町をひらきぬ 歴史と詩情のまち長崎 世界のナガサキ」古賀十二郎翁の碑(旧長崎県立図書館)から。ポルトガル船がやってきた、出島の時代がやってきた、シーボルトさん、グラバーさん、フルベッキさんがやってきた。下駄ばきで上海へ、人や文化が往来した母なる港を皆さんと歩きましょう!

ガイド NPO法人長崎の風
日時 4/11(土) 10:00～12:30
締切 3日前17:00
参加料 大人(中学生以上)800円
定員 10名
集合 長崎県庁舎1階ロビー
備考 昼食は別途お支払い頂きます。
キャンセル料 前日17時以降の場合、参加料金を全額お支払い頂きます。

昼食付(別途支払い)

特製「新長崎八十八か所さるくスタンプカード」対象コース

3. 期待される効果 等

- 地域と連携した観光まちづくり
- 住民参加による企画やガイドにより、住民の地域に対する誇りを再確認
- 街歩き観光の推進

○利用者の満足度が高く、リピーターが期待される

令和元年度参加者満足度：89%
平成30年度参加者満足度：88%

【長崎観光コンベンション協会：令和元年度事業報告より】

○経済効果の例(長崎さるく博 2006年実施)
-長崎市観光客数(2006年度)

	観光客数(万人)	前年比
宿泊客数	151.0	+8.5%
日帰り客数	204.2	+5.4%
観光客合計	355.2	+6.7%

-経済効果(1～3次波及効果を含む総合効果)
推定 865億円

【出典：NPO法人 長崎コンパドール】

【参考】伊豆MaaS実証実験【静岡県伊豆地域】

1. 背景・概要

- 鉄道5路線、バス390系統、タクシー数社がありながら、来訪手段は「8割が車」。2次交通を利用した周遊促進が、交通事業者含めた地元経済にとっての課題。
- こうした課題解決のために、空港や駅から目的地（観光地、宿泊地）までの2次交通をスマホで予約・決済し、旅行者にシームレスな移動を提供する「観光型MaaS」を推進。

2. 実施内容

【PHASE1】2019年4月1日～6月30日

- 2次交通の予約決済アプリを制作し、複数の交通・観光施設の予約決済を実施

- 主力商品
 - ・デジタルフリーパス商品（2日間有効）
 - 【Izukoイースト】伊豆急（伊東⇄下田）往復
 - 【Izukoワイド】三島⇒修善寺⇒河津⇒下田⇒伊東
- 予約・決済できる交通・観光施設
 - 鉄道（フリーパス利用時決済）
 - 路線バス（フリーパス利用時決済）
 - オンデマンド乗合交通（予約）
 - レンタサイクル、レンタカー（予約）
 - 観光6施設（決済）

- オンデマンド乗り合い交通は新規立ち上げ
 - ・下田「旧市街」内の16か所に乗降場所を設置
 - ・伊豆急東海タクシーはじめ、地元3社が運営
 - ・乗客がアプリを用いて行先を選び、AIが最適走行ルートを表示



【PHASE2】2019年12月1日～2020年3月10日

- PHASE1の結果も踏まえ、内容を拡充して実施。

- 主力商品
 - ・デジタルフリーパス（鉄道・バス乗り放題）
 - 【Izukoイースト】熱海⇄下田+バス
 - 【Izukoワイド】三島⇒修善寺⇒河津⇒下田⇒熱海
 - 【Izukoプチ】熱海⇄伊豆高原+バス
 - 【Izukoグリーン】三島⇄修善寺+バス
 - 熱海地区・バス乗り放題（東海バス、伊豆箱根バス）
 - ・熱海地区のバス+観光施設入場券セット2種類
- 予約・決済できる交通・観光施設
 - 鉄道
 - 路線バス
 - オンデマンド乗合交通（有料）
 - 観光施設等10種類
 - レンタサイクル、レンタカー（予約のみ）

3. 期待される効果 等

- PHASE1の期間中、アプリダウンロード数、オンデマンド交通利用者数が目標達成。

